令和５年度診療科別目標発表

藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

放射線診断科

医師の紹介

藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

放射線診断科

No.	氏名	役職等
1	五十嵐　達也	診療技術部長、乳腺画像診断科長
2	鹿子　裕介	科部長、科長兼務

（2019年は4人体制、2020年4月より3人体制、現在常勤は2名）

診療実績

藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

放射線診断科

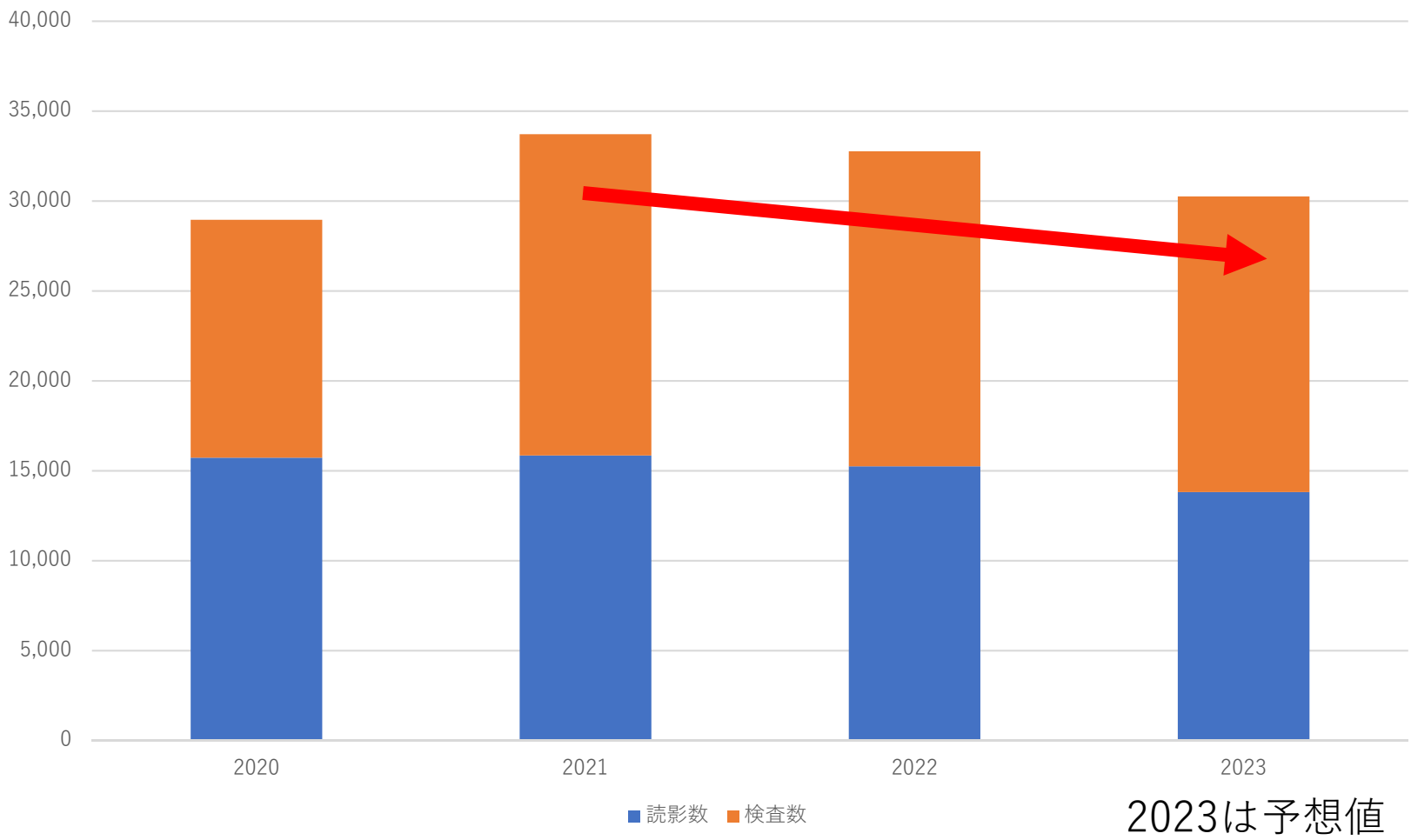
読影件数/検査件数

	2020	2021	2022	2023（1/1-9/11）
CT	15,723/28,958	15,850/33,715	15246/32763	10362/22690
MRI	5,021/7,504	5,603/10,009	5759/9122	4111/6353
RI	655/1,112	525/1,106	493/1046	257/605
MMG	5582/5582	6665/6665	6197/6197	4698/4698
読影件数(MMG除)	85	86	88	87
病診連携	1,666	1,997	2128	1501

↑

コロナの受診控え

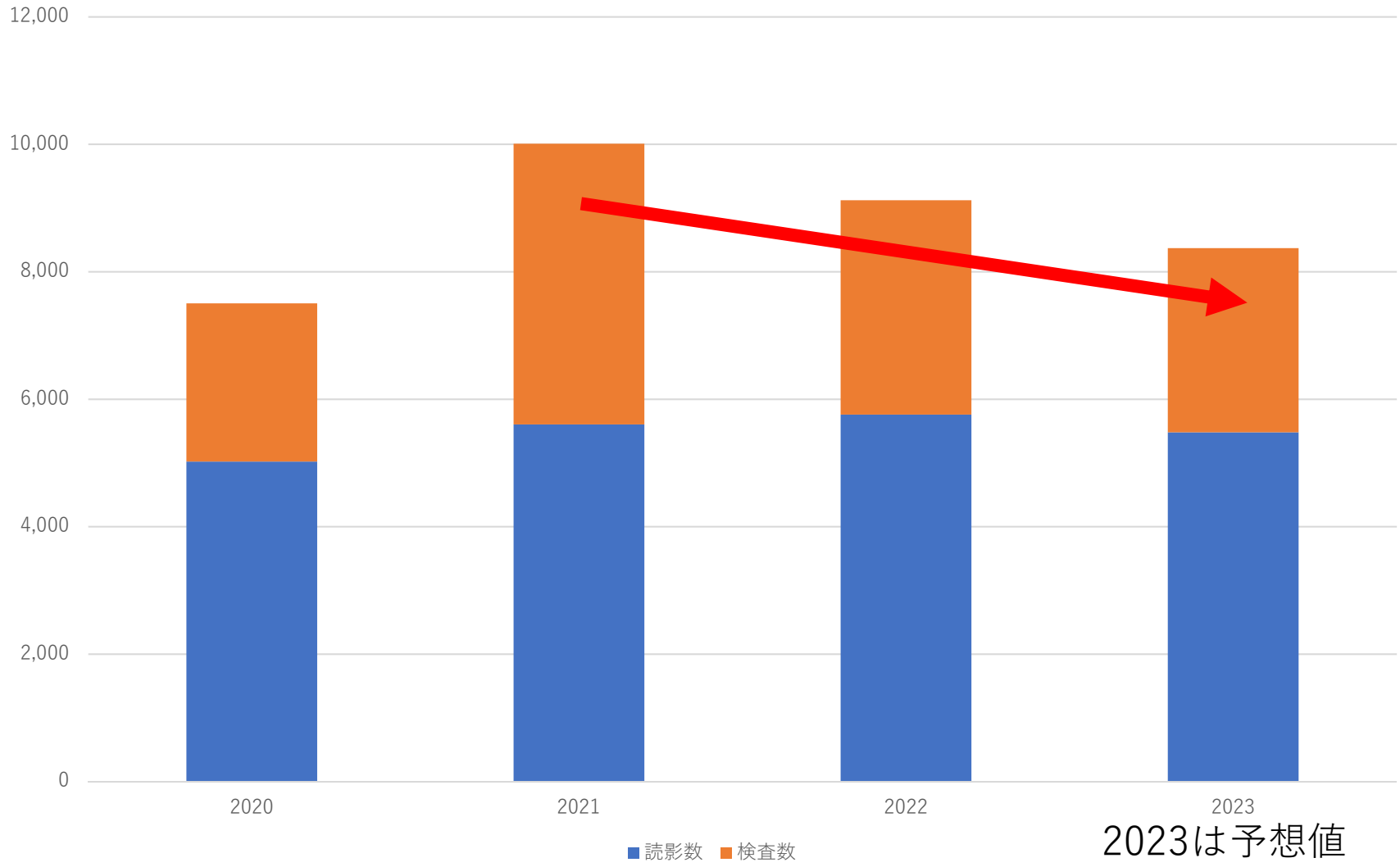
CTの読影件数/検査件数の推移



2023は予想値

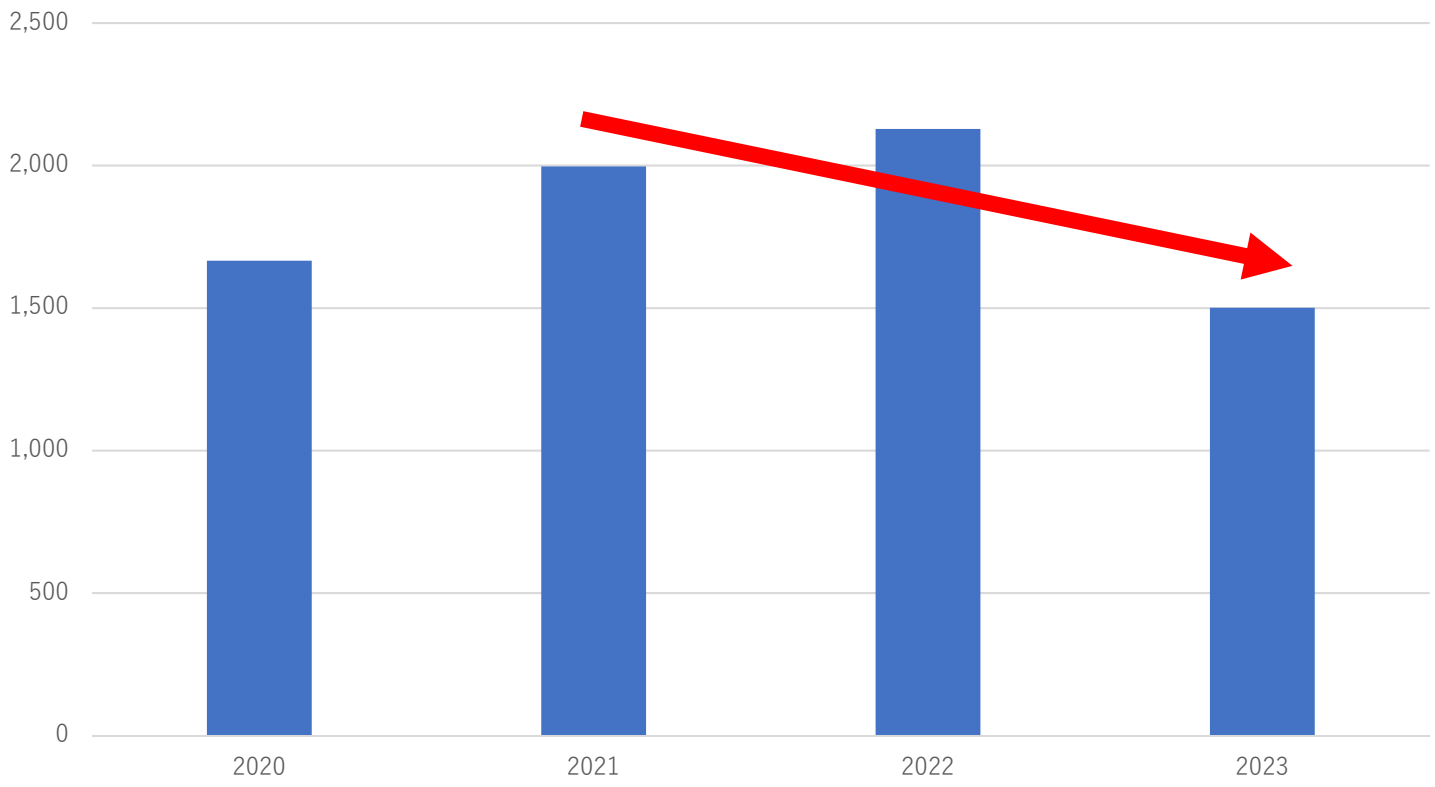
今年（2023)の予想：CT検査件数は減少、読影率は不変～微減

MRIの読影件数/検査件数の推移



今年（2023)の予想：MRI検査件数は減少、読影率は増加

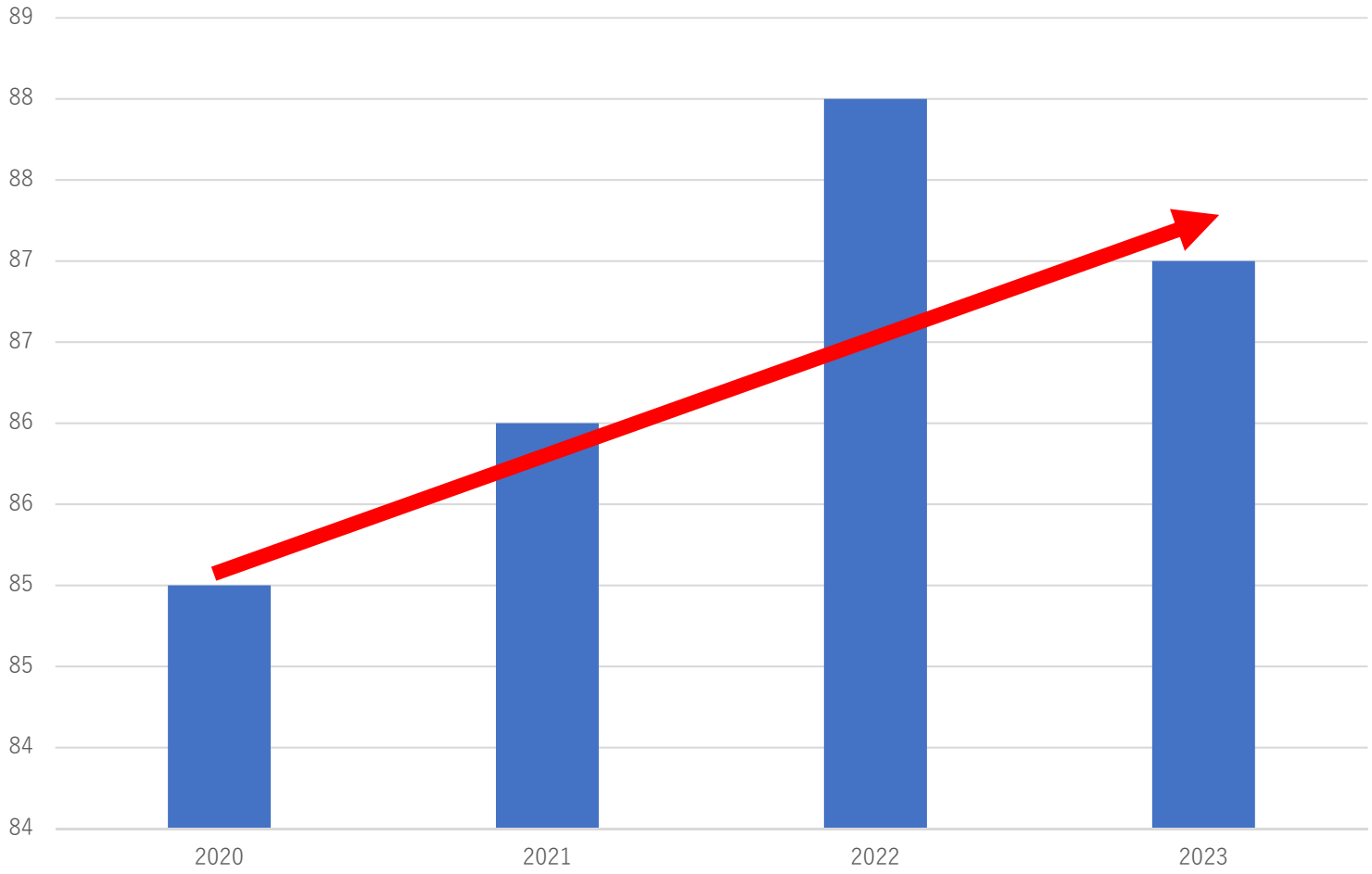
病診連携数



2023は予想値

今年（2023)の予想：病診連携数は減少

読影件数



読影数は増加傾向

Japanese College of Radiology
日本放射線科専門医会・医会

【提言】医療の質と安全を担保するための読影量について

2022.02.17

【提言】医療の質と安全を担保するための読影量について

医療の質と安全を保つため、放射線診断専門医１人あたりの読影件数は、検査管理やカンファレンス、コンサルティングなどの業務を除いた、読影に専念する時間１時間あたり４件以内とすべきである。よりよい画像診断のために、十分な画像診断医数を確保するべきである。

１日１人当たり30件以内

注：ここでいう読影件数の対象はCT、MRI、PET-CT/MRIである

現状の当科の問題点と方向性

放射線診断科

現在は読影依頼の制限は行っていない（救急除く）
現時点でのマンパワーに対する業務量は過大
　＝適正業務量は読影のみで60件（現状は読影のみで87件）

他、MMG読影（6000件以上/年）、乳腺US生検
IVR治療、IVR待機・稀に脳外科血栓回収待機Help
ドックとの協力（乳癌検診、脳血管ドック等）

造影剤注射
造影剤アレルギー対応、造影剤漏出対応
病診連携診察

現状の当科の問題点と方向性

藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

放射線診断科

【解決策】

マンパワーを増加させる

→病院HPで募集

放射線科医以外ができる業務移管（未実施のものを含む）

→注射業務：技師・看護師へのタスクシフト

アレルギー対応：救急科の協力

造影剤漏出対応：検査依頼科での対応

病診連携患者診察（5分×10名＝50分…3件の読影増加）

【課題】

PET-CT導入のために更なる時間の創出が必要

今後の方針

放射線診断科

藤枝市立総合病院
Fujieda Municipal General Hospital

【放射線診断科として】
・読影管理加算の維持＝読影の外部委託をしない（must）
・読影依頼の制限をしない（ほぼmust）

【検査件数増加のためには】
・PET－CT の導入・拡大＝タスクシフトの遂行による時間創出
（病院長に依頼済、一部実行）
・病診連携の増加＝検査枠の増加が必要か。
現状は予約から検査までの待ち時間が長すぎる？
→働き方改革を含めて病院全体として変化が必要
※マンパワーの問題から診察は放射線診断科以外で行うことが不可欠